

水村喜一郎展

～絵を描くことは生きること～



暮色・旧道に沿って(海野宿)

2017年5月3日(水)～8月14日(月)

若州一滴文庫 本館展示室1F

水村喜一郎ギャラリートーク

- 会場 若州一滴文庫 本館展示室1F
- 日時 2017年5月28日(日) 午後1時～
- 入館料 300円
- 定員 30名

若州一滴文庫

〒919-2116
福井県大飯郡おおい町岡田33-2-1
特定非営利活動法人 一滴の里事務局
TEL:0770-77-2445
FAX:0770-77-2366
HP:<http://www.itteki.jp/>
[休館日] 火曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)



水村喜一郎展

～絵を描くことは生きること～

水村喜一郎が随筆家岡部伊都子からもらった竹紙に描いた3枚の絵



1987年

竹紙水彩



1987年

竹紙水彩



1987年

竹紙水彩

電線にふれて両腕は真黒にこげ肩から切り落とさねばならなかった。両親ももう駄目だろうとあきらめていたという。一命をとり止めた水村少年は生来の活発さから、両手はなかつたけれど普通の小学校へ通い昨今の「いじめ」どころか、いつも4、5人を従えて登校するガキ大将だったという。手がないという理由から本を読まず字も書かず勉強など少しもしなかったそう。十六、十七才になった時好きだと思ふ女の子が出き、ラブレターを書くのに口で書くことを自分で覚えそれから字を書くように（中略）なったのだと話して下さった。

水村さんのラブレターを書きたいばかりに口で苦勞して字を書くようになったと云う教養とか、知的とか云うのでない、人間くさい、ぬくいぬくい話を聞いて私は涙が出てきて仕方なかった。

渡辺淳著「山椒庵日記」（於里満舎 所収「口で書いたラブレター」より）